

「ふじのくに芸術回廊」実現のために…

静岡県の各地域では、伝統文化から現代アートまで、様々な文化活動が行われています。地域の魅力ある文化活動が活発になり、定着するためには、文化を創造する(つくる)人、鑑賞する(みる)人に加えて、文化活動を支え、人々のつなぎ役となる(ささえる)人の活動が大きな鍵になります。

静岡県では、平成23年3月に第2期ふじのくに文化振興基本計画を策定。第1期計画を継承し「『みる』・『つくる』・『ささえる』人を育て、感性豊かな地域社会の形成をめざす」を基本目標に掲げています。

静岡県の取組

第2期ふじのくに文化振興基本計画(平成23年3月策定)

■基本目標

「みる」・「つくる」・「ささえる」人を育て、感性豊かな地域社会の形成をめざす。

■文化活動の3要素

「みる」

「感じる、味わう、発見する、知る、体験する、学ぶ、観る、聴く、試みる…」など、五感を使って文化を広く認知・享受する活動や感じとる活動

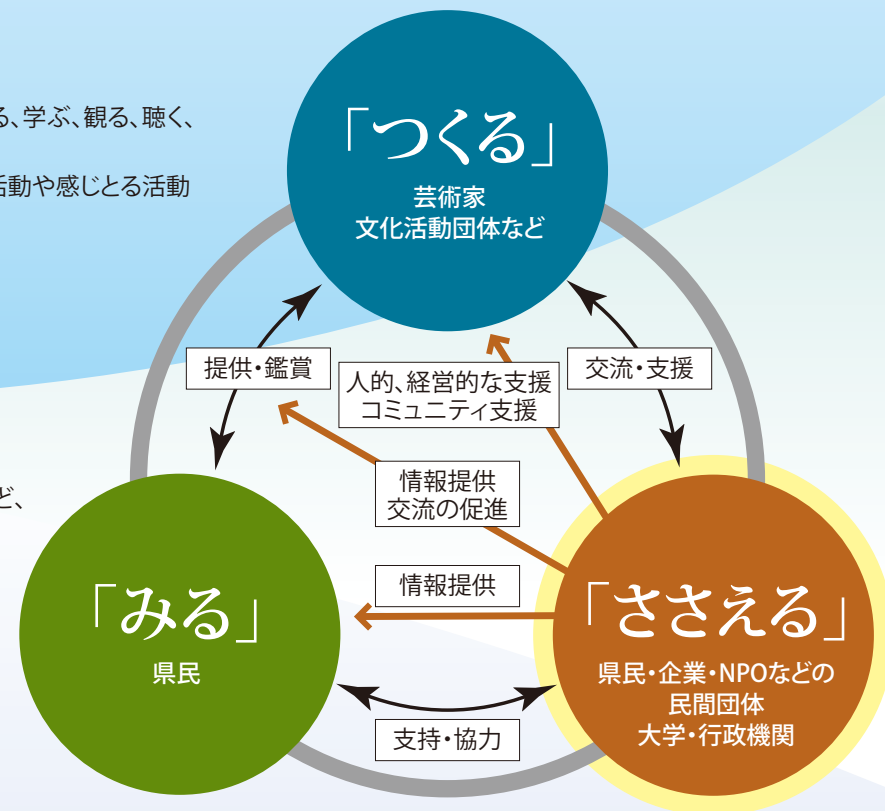
「つくる」

「行う、作る、活用する…」など、文化を創造・活用・発展させる活動

「ささえる」

「支える、つなげる、伝える、残す…」など、文化を支援・共有・継承する活動

新たな文化活動が生まれるきっかけとなる交流の場を提供したり、アーティストと地域を結びつけるなど、文化活動を発展させていくための、様々な活動が含まれます。



■施策展開の視点

「ささえる」機能の強化により、「みる」、「つくる」活動を活発化する

「みる」、「つくる」、「ささえる」のいずれの要素も、持続的な文化活動のためには必要であり、どの要素が欠けても健全な発展が望めません。

第2期の計画期間では、主に「ささえる」機能の活動基盤を強化することにより、「みる」、「つくる」、「ささえる」という3つの要素のバランスの良い発展を引き続きめざします。

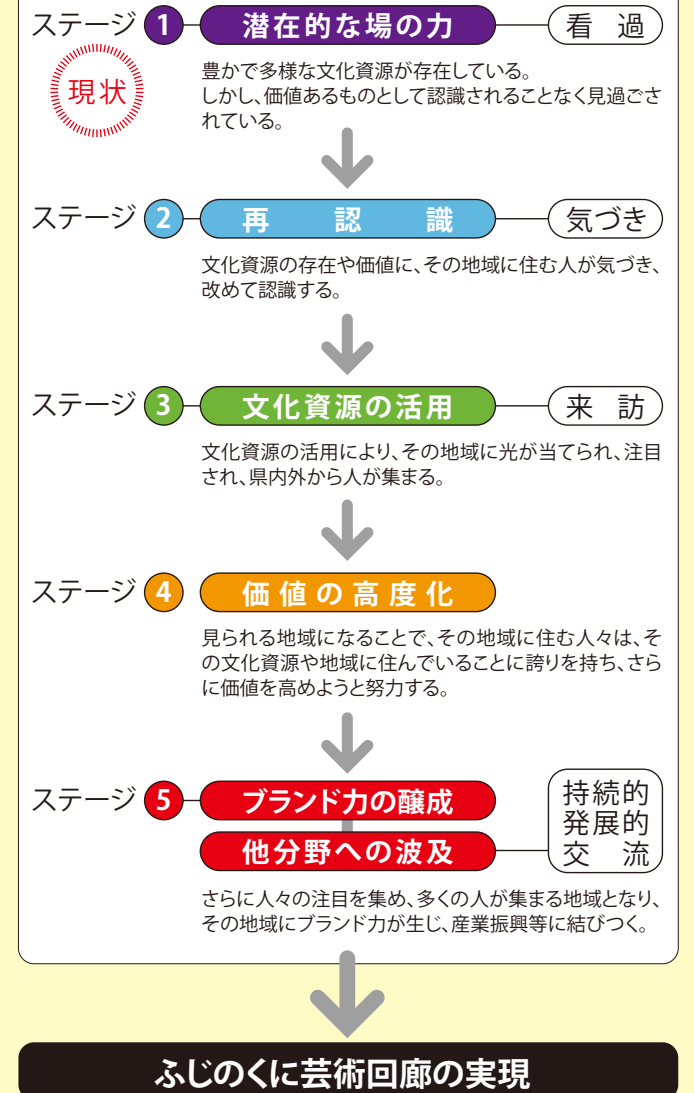
ふじのくに芸術回廊

静岡県は、豊かで多様な文化資源を有し、東西文化の融合の地でもあります。

それらの文化資源を再認識し、県内外に魅力を伝え、注目されることにより、地域で暮らす人も誇りを持って、さらに価値を高めようとしていきます。

こうした道筋をたどりながら、県内でいつでもどこでも多彩で魅力的な文化の花が咲き、国内外から憧れられる地域=「ふじのくに芸術回廊」の実現をめざしています。

「ふじのくに芸術回廊」実現へのアプローチ



ふじのくに芸術回廊の実現

茶・食・住＋温泉を考えるミーティング

県では、地域に根ざした生活文化と地域産業の新たな連携を探る取組として、平成22年度には、県西部地域を対象に「衣食住を考えるミーティング」を開催し、平成23年度は、東部地域を対象に、「茶・食・住＋温泉を考えるミーティング」として、「お茶」のある豊かな生活(暮らし)と静岡流おもてなし、「食」文化としてのジビエの魅力と課題、県産材を活用した住まいづくりを考える「住」文化、伊豆半島を癒しのメッカとする「かかりつけ湯」という「温泉」文化をテーマとして開催しました。

今年度も、暮らしに根ざした貴重な文化資源が生きている、地域の豊かさを改めて実感することとなりました。